

【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

2017年第44週の県内定点医療機関から報告されたインフルエンザは定点当たり0.68人であった。インフルエンザA(H1N1)pdm09が出現した2009/10シーズンを除けば過去10年の同時期と比較し最も多く、定点当たり報告数1.0人を流行開始の目安としているが、報告数は第41週以降微増が続いており、まもなく流行入りと考えられる。保健所単位では報告数のばらつきが大きいものの、既に定点当たり1.0人を超える地域も見られる(図)。現時点での定点当たり報告数とそのシーズンの流行の大きさを示唆するわけではないが、今後の動向が注視される。例外的な2009/10シーズンを除いて、2007/08シーズン以降、早い年には第46週に定点当たり1.0人を超え、第50週には注意報基準値の定点当たり10.0人、第52週に警報基準値の30.0人を超えた(表)。流行開始となる定点当たり1.0人を超える週はシーズンにより多少前後するが、報告数がピークとなるのは例年第4週もしくは第5週あたりであった。今シーズンこれまでのウイルス分離・検出状況は、シーズン開始(第36週)直後はA型インフルエンザウイルスにおいてはA(H3)亜型とA(H1)pdm09亜型がほぼ同程度の割合で認められていたが、ここ数週はA(H3)亜型が主となっている。B型インフルエンザウイルスにおいてはこれまでのところ山形系統が主となっている。

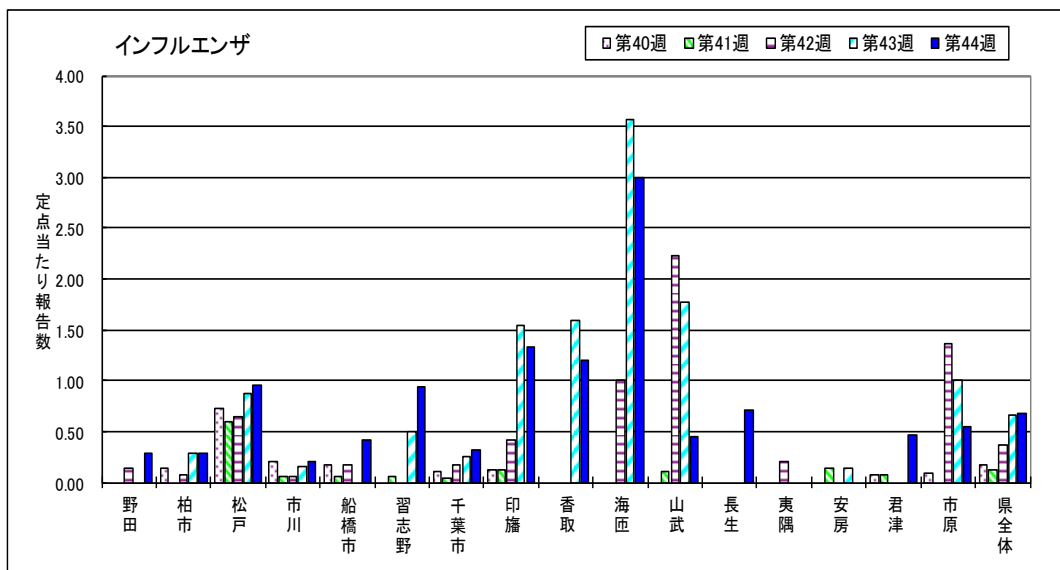
予防としては基本的事項として、手洗いの励行、マスクの着用、人混みを避けること、適度な湿度(50%～60%)の確保等である。ワクチンは①65歳以上の高齢者、②60歳以上65歳未満であって心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能に、またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に一定の障害を有する者に対しては定期接種の対象(市町村により実施期間や費用は異なる)となっており、その他の年齢では任意接種となる。インフルエンザワクチンの有効性(Vaccine effectiveness; VE)は、そのシーズンの流行株とワクチン株の抗原性の一致・不一致にも影響を受けるが、感染者において一定の発病予防の効果、また重症化予防に対する効果が認められている。

参考・引用

厚生労働省：インフルエンザ Q&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

図：直近5週（第40～44週）の県内定点医療機関当たり
インフルエンザの報告数；保健所別



表：2007/08～2016/17シーズンにおける、県内定点医療機関から報告された
インフルエンザの動向

	定点当たり報告数 1.0人を超えた週	定点当たり報告数 10.0人を超えた週	定点当たり報告数 30.0人を超えた週	ピーク週（当該週の 定点当たり報告数）
2007/08	第46週	第51週	—	第5週（14.2人）
2008/09	第48週	第2週	第4週	第4週（46.0人）
2009/10	第33週	第41週	第44週	第47週（37.0人）
2010/11	第50週	第2週	第3週	第4週（40.6人）
2011/12	第50週	第3週	第4週	第5週（50.8人）
2012/13	第49週	第2週	第3週	第4週（53.2人）
2013/14	第51週	第3週	第4週	第5週（42.3人）
2014/15	第47週	第50週	第52週	第4週（37.7人）
2015/16	第1週	第3週	第5週	第6週（46.4人）
2016/17	第46週	第1週	第3週	第4週（51.4人）